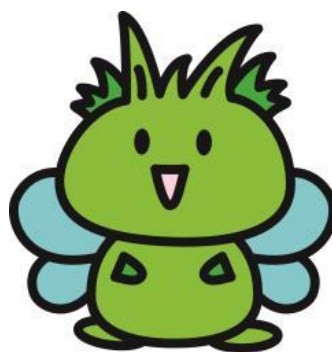


平成29年度図書館重点事業 実施報告



平成30年9月

東村山市立図書館

平成29年度図書館運営方針

運営方針

市民の多様な学習スタイルや読書要求に応える情報提供の充実に努めるとともに、東村山市子ども読書活動推進計画を推進する。また、読書に関わるボランティア活動、地域活動を支援し、自治意識を育む生涯学習環境の整備に努める。

重点事業

1 第3次子ども読書活動推進計画の推進

子どもに関わる部署や関連施設との連携、子どもの読書に関わる市民活動への支援等を継続し、年代や生活環境に合わせた取り組みを行う。

- (1) 子どもの読書に関わる市民活動への支援と協働事業の充実
- (2) 学校での読書推進に向けた支援事業の充実

2 資料提供の充実

多様な市民ニーズに対応できる資料をバランスよく収集し、提供方法を工夫することにより、暮らしに役立つ情報提供の充実に図る。

- (1) オリンピック・パラリンピック理解促進事業の実施
- (2) 図書館利用に障害のあるかたへのサービスの充実

3 高齢社会に対応したサービスの充実

高齢者への読書支援充実にむけた取り組みを行う。

- (1) 高齢社会に対応した資料の充実
- (2) 高齢者施設でのボランティア活動の支援

4 読書環境の整備

施設の老朽化を踏まえ、状況に応じた迅速な対応による安心・安全な読書環境維持に努める。

- (1) 中央図書館耐震補強工事の実施
- (2) 安定的な施設管理および適切な読書環境維持への工夫

5 職員体制の充実

利用者への的確な案内・対応や適正な書架管理ができる人材の育成を図る。

- (1) 業務内容に応じた各種職員研修の実施

1. 第3次子ども読書活動推進計画の推進

1-1. 子どもの読書に関わる市民活動への支援と協働事業の充実（継続）

取り組み内容と実績

1. 支援事業

- （1）乳幼児への読み聞かせボランティア（通称「図書館くまボラさん」）募集
29年度も新規ボランティアを募集し、新たに14名の登録があった。
- （2）東村山子ども読書連絡会（1回 参加人数 28人）
市内で子どもの読書に関わる活動をしているグループや個人をつなぐ連絡会として開催。図書館からの情報提供や参加者相互の情報交換等を行った。
- （3）研修会等の開催
 - ◆ 乳幼児への読み聞かせボランティア研修・交流会（3回 参加延べ86人）
乳幼児への読み聞かせで使うおすすめ本の紹介や、情報交換を行った。
＊うち1回はボランティア向け講座として実施
ボランティアのための「子どもと本を知る」講座 冬の絵本を楽しもう！
 - ◆ 読み聞かせ入門講座（1回 参加人数 28人）
要請に応じて小学校に職員が出向き、保護者対象に読み聞かせの基礎知識を伝えた。
 - ◆ 「東村山うちでのこづち」のおはなし会等への支援を行った。

2. 協働事業（ボランティア派遣等）

- ◆ 乳幼児への読み聞かせ（41か所 336回 ボランティア延べ1,006人）
3～4か月児健診や関連施設での乳幼児への読み聞かせ活動の充実を図った。
- ◆ 小学校等への読み聞かせ（6か所 27回 ボランティア延べ136人）
- ◆ 「みんな大好き！電車図書館 - くめがわ電車図書館開館50周年記念イベント」
くめがわ電車図書館と共催で実施。2日間で延べ504人の来場者があった。
協力：図書館くまボラさん、がらくた文庫、東村山うちでのこづち、紙芝居サークル「原っぱ」、布の絵本サポーターズ
- ◆ 各種関連団体との取り組み（おはなし会、親子豆本作り教室、「おなかの赤ちゃんを楽しむマタニティ絵本タイム」、「お父さんと楽しむおはなし会0・1・2才！」等）

成果

- ◆ 29年度も新規ボランティアを募集し、14名の登録があった。ボランティア派遣については、派遣先・ボランティアとの連絡調整を密に行い、安定的稼働ができています。
- ◆ 子どもの読書に関わる市民へ、活動の状況に応じた講座・研修会・交流会を実施することにより、ボランティアの活動を支援し、活動が充実したものとなった。
- ◆ 29年度も新たな企画を共催により実施することができた。

課題

ボランティア派遣事業を安定的・継続的に実施していくためには、ボランティアの確保と研修等によるボランティア活動の質の維持・向上が必要である。

図書館協議会からの意見

- 計画を丁寧に進めているので今後もしっかり継続してほしい。
- 子ども読書活動推進計画は18歳までが対象なので中学生以上への対応もさらに深めてほしい。

1-2. 学校での読書推進に向けた支援事業の充実（継続）

取り組み内容と実績

学校図書館専任司書（以下「学校司書」）の通年配置 6 年目となった。

学校司書の配置：指導室予算による配置。12 名による 2 校兼務の体制で、各校には週 2 日、1 日 5 時間の勤務。うち 2 名は支援担当として週 2 日ずつ中央図書館に勤務して図書館職員とともに各校への支援を行う。

<研修等>

- 学校司書の研修会（全体研修 2 回、小学校司書研修 1 回、中学校司書研修 1 回）と、学校図書館担当者連絡会（3 回）を指導室と連携して実施した。うち 1 回は外部講師を招き、「司書と先生がつくる学校図書館」を実施した。
- 管理・運営マニュアル『学校図書館の手引き』の更新のほか、学校司書配置に関わる各種調整を指導室・学務課と連携して進めた。
- 全国国語科教育研究大会シンポジウム「日常の読書活動につなげる指導のあり方」鼎談、久米川小学校道徳地区公開講座講演会「本が好きな子どもが育つ魔法」等の講師を図書館職員が務めた。

<支援>

- 学校図書館ボランティアの依頼を受け「本の修理講座」を実施した。
- 東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けて「調べよう！オリンピック・パラリンピック」として調べるシート 46 種、調べ方ガイド 2 種を作成した。
- 中央図書館に勤務する学校図書館支援担当と連携して、小学校図書館だよりの雛形送付、単元に合わせた本の情報提供を行った。また、中学校図書館だよりの特別合併号を編集し、各校へ配布した。
- 各校へは学校司書をはじめ教員からの相談に応じて、授業で利用する本の準備・貸出等の支援を行った。また、けやき教室用の学級文庫図書も貸出した。

学校への図書貸出件数 617 件（16,751 冊）（28 年度 584 件 15,024 冊）

- 学校へ出向いてのブックトークや図書館見学の受入等を実施した。

成果

- 学校司書の配置により、各校の状況に応じた学校図書館の整備が進んだ。
- 教員と学校司書の連携により、授業の中で本を活用する機会が増え、様々な取り組みが行われた。

課題

- 引き続き指導室、学務課と連携して、各学校の状況に応じた読書推進の取り組みを支援する。
- さらなる充実に向けて、学校司書の配置日数の拡大や、コンピュータによる蔵書管理システム導入の検討が必要である。

図書館協議会からの意見

○学校図書館の開館時間拡大のために、学校司書の配置時間、日数を増やすことを検討してほしい。

○市立図書館と学校と指導室等との連携により成果が生まれてきたことを評価する。

○今後も蓄積したノウハウが伝えていけるよう、市立図書館の職員体制の充実を考えてほしい。

2. 資料提供の充実

2-1. オリンピック・パラリンピック理解促進事業の充実（新規）

取り組み内容・実績

- ・ 「スポーツ振興等事業費補助金」（東京都 1/2 補助）を活用し、「本で知ろうオリンピック・パラリンピックと世界の国々」事業を実施し、理解促進に努めた。
- ・ 関連資料を集めた資料展示を中央図書館で7回、地区館各1回行った。
中央図書館展示「世界の食と料理」。「中国を知ろう」、「絹の紡ぐ道」、「スポーツ小説集めました」、「応援しよう！平昌オリンピック・パラリンピック」、「語学ボランティアしてみない？」
- ・ 「調べよう！オリンピック・パラリンピック」
夏休みに百科事典や本を使った調べ学習として各図書館でコーナーを設置。調べ方ガイドと調べるシートを用意した。
- ・ 補助金による資料購入 750 冊（2,139 千円）
ほかに、展示用書架やブックトラック、ブックエンド等を購入



成果

中国のホストタウン登録や女子アイスホッケー日本代表選手の応援など、市の取り組みと連動した展示を行い、気運醸成につなげることができた。

子ども用百科事典を追加購入したことで、学校への貸出に対応できるようになった。

課題

「調べよう！オリンピック・パラリンピック」コーナーを設置したが、すでに夏休みの課題が出されている中で新たに取り組む子は少なかった。次年度以降、学校を通して案内するなど活用に向けての方法を検討していく。また、子どもたちがすすんで参加するように参加した子の成果物の掲示も工夫したい。

図書館協議会からの意見

○インターネット情報だけでなく、百科事典など本で調べることを学ぶ機会が設けられていることを評価する。

○購入した資料を今後も活用して欲しい。

2-2. 図書館利用に障害のあるかたへのサービスの充実（継続）

取り組み内容・実績

1. 音訳ボランティアの育成

- 東村山音訳の会の新規募集(第9期生)の会員を対象に、新規音訳講習会（中級）と、デイジー講習会（初級）を行い、29年度下半期から、声の市報「はと」作成や、対面朗読などの活動に新戦力として加わってもらうことができた。
- 既存会員に対しては、図書館音訳講習会（中級）と、デイジー講習会（中級）を実施し、音訳技術の向上と、デジタル録音資料の作成技術の習得を目指した。

2. 資料提供

- サピエ（視覚障害者などに音声データなどを提供するネットワーク）を利用したオンラインリクエストの活用が進み、デイジー録音図書利用者提供数が増加した。
28年度 1,020 タイトル → 29年度 1,232 タイトル
- 引き続きテープ図書のデイジー化を進めた。(29年度3タイトル)

3. その他

- 「困り感や障がいのあるお子さんのための布の絵本プレイルーム」を開催した。
- 布の絵本を障害児関連団体に貸出した。
- 図書館への来館が困難なかたが入所する施設（老人ホーム等）に図書の貸出をした。
(施設数 3 か所 貸出冊数 839 冊)
- 東村山音訳の会と懇談会を実施した。

成果

- 新規募集した音訳ボランティアが活動に加わり、障害者サービス提供の体制が強化された。
- 東村山音訳の会と課題や成果を共有する機会を設けることで、円滑に事業を実施することができた。
- 劣化が進む自館作成テープ図書（95タイトル）について、精査しながら計画的にデイジー化を進めることができた。

課題

- 障害者サービスを周知する効果的な手法については、工夫が必要。
- 障害者差別解消法施行に対応した多様な障害者サービスを実施するには、全館的な業務分担など見直しを進める必要がある。
- 市広報類の音訳化については、発行所管で責任をもって対応すべきものとして、引き続き関係所管と今後の方向性の調整していく。

図書館協議会からの意見

- 視覚障害者だけでなく、他の障害によって図書館利用が困難な方へのサービスを考える必要がある。
- たとえば宅配なども研究して欲しい。

3. 高齢社会に対応したサービスの充実

3-1. 高齢社会に対応した資料の充実（新規）

取り組み内容・実績

- 中央図書館に「介護情報コーナー」を開設。
家庭や施設で高齢者の介護をするかたに役に立つ本と
市内介護関連情報などを集めてコーナーを設置した。
- 児童書架や一般書架に分散していた、高齢者施設での
ボランティア活動に使えるレクリエーションの本をコ
ーナーに集約した。
- 全館で高齢者向けの紙芝居の購入をすすめるととも
に、紙芝居の分類に「高齢者」を加えた。中央図書館
では高齢者向けの紙芝居を児童コーナーから介護情報
コーナーに移動した。
- 関連図書で古くなったものを買い替え更新を行い、新たに介護情報雑誌の定期購入、
高齢介護課（現介護保険課）および地域包括支援センターからチラシやパンフレット
を収集した。



成果

- 高齢者向けの紙芝居の資料的位置づけを明確にして定位置を確保するとともに、紙芝居を集中的に購入して蔵書を充実させることができた。
- 介護情報コーナーを設置することで、介護関連本の選書や関連情報収集を意識的に行うことができた。

課題

- 「ボランティア講座 高齢者施設での紙芝居」のために作成・配布した高齢者向け紙芝居リストを編集し直し、全館で配布したり、ホームページに掲載できるようにする。
- 介護情報コーナーは収容冊数に限りがあるため、コーナーの本や情報を入口に深く調べることができるように関連する一般書架への案内表示などを工夫する。
- コーナーの主旨にあった新刊図書を積極的に購入することで資料を充実させる。

図書館協議会からの意見

- コーナー化により複数の分類から資料を集めることにより可視化できて良かった。
- 図書資料だけでなくチラシもあるため情報入手の場として有効である。
- 図書館にこうしたコーナーがあることについて、普段あまり図書館を利用しない方へのPRを積極的に進めてもらいたい。

3-2. 高齢者施設でのボランティア活動の支援（新規）

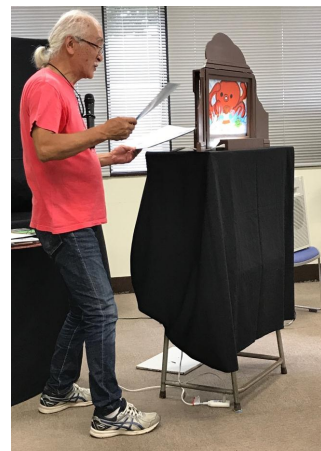
取り組み内容・実績

- 「ボランティア講座 高齢者施設での紙芝居」の実施
7月7日・11日・14日の全3回 延べ112人参加
初回は、真野朋子氏（紙芝居サークル「原っぱ」代表）、第2回は遠山昭雄氏（介護紙芝居研究者・実演者）のお話しと実演。3回目は交流会を設定し、ボランティアや施設職員・紙芝居に興味のある高齢者などの参加で活発な情報交換ができた。
- 市内で、大人向けに紙芝居の実演・交流を行っている、「大人向け紙芝居を楽しむ会」の紹介を行った。
- 「大人のためのプレミアム紙芝居ショータイムオブ原っぱ」（紙芝居サークル「原っぱ」と中央図書館共催）を実施し、実演の参考にしてもらった。
9月15日 1部・2部合計86人参加



講座の様子

←第1回



第2回→

成果

- 紙芝居は子ども向けだけでなく、高齢者にも楽しめる作品が出版されていることや、図書館が紙芝居や紙芝居舞台を貸出し、ボランティアの支援をしていることを伝えることができた。
- 市内で活動している、団体をPRすることで活動をサポートし、利用者につなげることができた。

課題

- 高齢者向けのボランティア活動を支援する資料整備は中央図書館が中心であり、地区館でも重点的な購入やコーナーの設置・既存コーナーの充実が必要。
（秋津・萩山・廻田にシニアコーナー・廻田に介護コーナー設置）
- 高齢者施設への施設貸出に関してサービス要綱などの条件整備が不十分であり、今後整理する必要がある。

図書館協議会からの意見

○初の試みであったが好評とのことなので今後も紙芝居の活用とボランティア支援などを継続して欲しい。

4. 読書環境の整備

4-1. 中央図書館耐震補強工事の実施（継続）

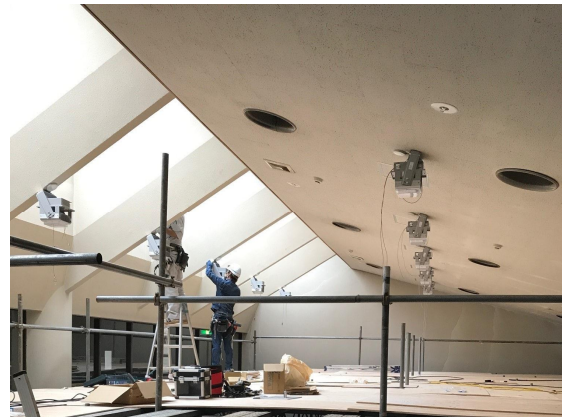
取り組み内容・実績

第4次東村山市総合計画実施計画 「中央図書館耐震改修事業」

- 図書館は、昭和48年度に建築された旧耐震基準の建物であり、平成27年度に実施した耐震診断では、国の基準で定める必要な耐震性能を有しておらず、地下の壁の一部を補強する必要があることがわかった。
- 5月12日から9月15日を工期として耐震補強工事を行った。（休館は下記の吊下げ照明工事と合わせて6月19日から6月27日）
主な工事内容：地下1階ドライエリア壁面をRC造耐力壁に変更、耐震スリットの挿入、鉄骨階段の付替え
- 非構造部材の吊下げ式の水銀灯を天井直付けのLED照明へ交換する工事と、避難誘導灯の振れ止め設置工事を行った。



* 耐震補強工事
中央図書館の地下に設置した耐震壁



* 吊下げ照明交換工事

成果

- 中央図書館の建物の強度が上がり、照明や避難誘導灯の揺れによる損壊の恐れが少なくなり、安全性が高まった。

課題

- 耐震補強以外で指摘のあった事項について、修繕計画を立てて計画的に行っていく必要がある。

図書館協議会からの意見

- 〇工事によりハード面の安全性は一定整備できた。災害時に適切に利用者を避難誘導できるよう、避難計画や訓練体制などソフト面の充実をはかってほしい。

4-2. 安定的な施設管理および適切な読書環境維持への工夫（新規）

取り組み内容・実績

各館とも設備の故障等に、関係所管との連携・協力のもと調整しながら読書環境維持に努めた。

<共通>

- ・ 全館の開架部分の書架上段に資料落下防止テープを貼付した。

<中央図書館>耐震補強工事は、4・1の通り

- ・ ガラス窓修繕（児童コーナー窓枠コーキング打ち直し）

<富士見図書館>

- ・ ブックポストの増設
- ・ 自動ドア修繕、空調機修繕、トイレ修繕、漏水調査（修繕）
- ・ 富士見町周辺の不審者対策として、周辺の見通しが良くなるように植栽を刈込み、玄関照明をLEDに変更するなど、都営住宅自治会など関連部署と情報共有しながら改善を図った。

<萩山図書館>

- ・ 照明器具修繕（25年度から継続、5年目）
- ・ 空調機修繕
- ・ 萩山文化センター屋上防水改修工事（公民館との按分予算）

<秋津図書館>

- ・ トイレ自動洗浄センサー修繕
- ・ 自動ドア修繕
- ・ 秋津文化センター外灯改修工事（公民館との按分予算）
- ・ 秋津文化センター空調設備交換工事（公民館との按分予算）
- ・ 冷温水管調査（漏水対応）

<廻田図書館>

- ・ 空調機修繕（公民館との按分予算）

成果

- ・ 各種の工事修繕により良好な読書環境を保つことができた。

課題

- ・ 各館とも老朽化が進み常に修繕が必要な状態が続いているため、長期的な見通しをたてて計画的に対応していく必要がある。

図書館協議会からの意見

○施設の老朽化が進むが今後も適切に修繕を進めてほしい。

5. 職員体制の充実

業務内容に応じた各種職員研修の充実（継続）

取り組み内容・実績

1. 内部研修

① 日常業務を深めるための研修（専門知識・技能の習得）

図書館新人研修（対象：新任職員・新任嘱託職員）

資料検索研修（対象：職員全員）

レファレンス・カウンター研修

新しく参考資料室カウンターに座るために（対象：新規対象職員）

レファレンス研修

新旧地番対照資料の使い方（対象：参考資料室カウンター職員）

認知症サポーター養成講座（講師：包括支援センター職員）（対象：職員全員）

② ボランティアのための講座への参加

図書館主催のボランティア対象の講座「冬の絵本を楽しもう！」

冬のおはなし会におすすめ絵本・わらべうたの紹介、プログラムの作成など。

（対象：児童担当職員）

2. 外部研修への参加

都立図書館や都内の図書館関連団体などが開催する講演会や研修会への参加により、図書館業務に関する知見を深め、より専門的な技能の習得を図った。

成果

- 職員、嘱託職員共に研修参加により、業務への理解を深めることができた。
- 他の業務経験を持つ職員と連携して研修を行うことができた。
- 研修の報告や配布資料を他の職員に回覧することにより、参加できなかった職員にも情報の共有を図り、知識や技能を伝達することができた。
- 新たに中央図書館レファレンスカウンター担当職員を増員できた。

課題

- 業務の質を高めるためには、館内だけでなく外部研修も有効であり、外部研修へ積極的に派遣していく必要がある。
- 中央図書館のレファレンスカウンターを担当できる職員は増えたので、今後はそのレベルアップをはかるための研修が必要となる。

図書館協議会からの意見

○積極的な研修受講と知識の共有を評価する。引き続き取り組んでほしい。

○今後も充実した職員体制の継続が図られるように、退職により司書職員が減少した後の補充を進めてほしい。